

健康登山77:周辺の山35 (鈴鹿 御池岳)

コース	鞍掛トンネル駐車場 1.3km/21 0.4km/31 0.5km/15	コグルミ谷登山口 0.8km/46 カタクリ峠 0.6km/24 御池岳 1.8km/44	真ノ谷出合 1.1km/40 鈴北岳 1.9km/50	長命水 ポタンブチ 鞍掛峠 0.5km/22 駐車場
水平距離	8.9km		断面図 縦軸: 高度m 横軸: 距離km	
水平換算距離				
累計高低差	登り858m、下り858m			
標準歩行時間	4:53			
実績歩行時間	4:56			



山行報告

山行日 2012・6・7(木) 天候 晴れ 参加者 5名

山科駅前7:30 鞍掛トンネル東口駐車場9:00~9:13 コグルミ谷登山口9:33 長命水
 行動 10:19 カタクリ峠10:53 真ノ谷出合11:11 ポタンブチ(昼食)11:59~12:37 御池岳
 池岳12:50 鈴北岳13:34 鞍掛峠14:47 駐車場15:09~30 山科駅17:20

記録

梅雨入り前の好天気恵まれ、気持ちよく鈴鹿の最高峰御池岳と鈴北岳を周回できた。

山科駅から彦根IC経由で標高600mの鞍掛トンネル東口まで1時間半で着いた。国道306号線を20分下ってコグルミ谷登山口に到着、登山届を出して登りはじめた。谷沿いの道はよく踏まれていて歩きやすい、ひと汗かいた頃に長命水があるので潤した。しばらく歩くと突然五合目の標識があり、ここからは山腹道になり15分程で県境稜線のカタクリ峠に着いた。ここに六合目の標識があり、カタクリ峠付近に咲く花が紹介されていた。

カタクリ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、チゴヨリ、スズカカンアオイ、フタバアオイ、イワカガミ、ミノコバイモ、このうちフタリシズカが咲いていたので写真に収めた。

稜線道は快適な自然林の散策で存分に森林浴を楽しんだ。御池岳は広い台地状の山だが道標があるので安心して歩けた。七合目からはバイケイソウの大群落だった。御池岳はパスして展望のよいポタンブチへ直行して景色を見ながら昼食をした。ポタンブチから奥の平にかけては広大な草原が広がっていた。

午後は御池岳で記念写真を撮り、池の平と呼ばれる真ノ谷源流を散策しながら、鈴北岳へ向った。元池や真ノ池あたりを日本庭園と称しているが、一面苔に覆われた湿原だった。

鈴北岳は格好の展望台で伊吹山や琵琶湖が遠望でき、鍋尻山や霊仙山は近くに見えた。鍋尻山の延長線上の右に円錐形の島が見え、竹生島ではと思ったが、帰宅後調べると山本山だった。鈴北岳は2004年4月に大君ヶ畑登山口 鈴ヶ岳 鈴北岳 鞍掛峠コースを歩いているので、今回で御池岳までつながったことになる。

下山は鞍掛峠から鞍掛トンネル東口駐車場へ下り、往路を京都へ向った。

周辺の山 (鈴鹿 御池岳)



コグルミ谷
登山口
9:30



長命水で
のどを潤す
10:19



フタリシズカ
10:25



カタクリ峠
10:45



県境稜線を歩く
10:55



ポタンブチから
天狗堂、奥は日本コバ
11:58



御池岳にて
12:53



鈴北岳へ向う
13:09



鈴北岳より
鞍掛峠へ下る
13:56



出発点に戻る
鞍掛トンネル東口
15:06

名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：御池岳）

参考資料 ホームページ他より

以下の内容はウィクペディア御池岳の内容を転記させていただきました。

御池岳

概要：滋賀県東近江市の鈴鹿国定公園内にある標高 1247m の山。鈴鹿山脈の最高峰。鈴鹿山脈の主稜線から南に派生する尾根にある。その尾根の北西には鈴北岳 1130m があり主稜線に達している。南東には土倉岳 1049m がある。

山体は古生層の石灰岩からなり、広い平らな山頂部は「テーブルランド」と呼ばれている。山頂部には多くの池やドリーネが点在する。最大の池は、日本庭園近くの元池で、その南東には真ノ池がある。

山頂部は丸山とも呼ばれ、山頂の西端には、ポタンブチ及び天狗の鼻と呼ばれる、崖の上の展望地がある。

山頂からは御在所山など鈴鹿山脈のほとんどの山が望める。遠く伊吹山、乗鞍岳、御嶽山、中央アルプスや恵那山などを、望むこともできる。

気候：冬は西側が琵琶湖のため、日本海側の気候の影響が強く積雪があり、山頂では樹氷が見られることがある。その他の季節は伊勢湾に近いため、太平洋側の気候となる。登山口のある国道 306 号の鞍掛トンネル周辺は、冬季は積雪のために閉鎖される。

登山ルート：以下が主な登山ルートで、最短ルートはコグルミ谷からのルートである。

コグルミ谷登山口 長命水 カタクリ峠 真ノ谷 御池岳

コグルミ谷登山口 タテ谷（難路） 鈴北岳 日本庭園 真ノ谷 御池岳

国道 306 号鞍掛トンネル東登山口（三重県側） 鞍掛峠 鈴北岳 日本庭園 真ノ谷 御池岳

国道 306 号鞍掛トンネル西登山口（滋賀県側） 鞍掛峠 鈴北岳 日本庭園 真ノ谷 御池岳

藤原岳登山口 藤原山荘 天狗岩 頭蛇ヶ平 カタクリ峠 真ノ谷 御池岳

登山道周辺の植物：山頂周辺ではササ枯れが進んでいて、オオイタヤメイゲツが点在している。1980 年（昭和 55 年）に田中澄江は御池岳を花の百名山のひとつに選定し、代表する花としてヤマエンゴサクなどを紹介した。

他にもイワカガミ、カタクリ、キクザキイチゲ、タチツボスミレ、ニリンソウなど多くの花が登山道周辺で見られる。

鞍掛峠 : 鞍掛峠登り口に表示されていた案内板(藤原町)の内容を転記

鞍掛峠 至 山口冷川 五十丁、 自 大君ヶ畑 五十丁

伊勢と近江を結んだ鞍掛峠(791m)はその昔「胸突八丁」と言われた難所で、私達の先祖が京都本山へ納骨に参った道であり、お多賀参りに福寿を念じた道である。

一方近江の人々にとっては伊勢参宮に下向した街道で、両国の文化交流の道であった。今は国道306号鞍掛トンネル(長さ745m、標高625m)の開通で、ただ昔をしのぶ歴史の道と化した。

第五十二代嵯峨天皇の弘仁元年(810)薬子の乱で都を逃れた参議藤原仲成がこの峠を越えて当町西野尻に隠棲したという伝説がある。また、峠の名は第五十五代文徳天皇の天安二年(858)第一皇子惟喬親王が右大臣藤原良房の追討を逃れて都落ちをさせられた時、この峠で馬の鞍をはずして休憩をせられた故事にちなんで名付けられたもので、古くは竜華峠とも呼んでいた。

天文十三年(1544)十月には俳諧師宗牧が江戸に下る際うたった「あとや雪しまきよこぎる笠やどり」の句が残されている。

こうした数々の歴史が秘められた道が鞍掛峠である。(藤原町教育委員会)